



目次

飯山準一図書館長 退任のご挨拶

『図書館長退任の言葉』

図書館長 飯山 準一

- お知らせ
- 編集後記

◆ 『図書館長退任の言葉』

図書館長（リハビリテーション学科教授） 飯山準一



8年間にわたり務めさせていただいた館長をこの度退任することとなりました。子供時分から本も本屋さんも図書館も好きな私にとって、図書館の仕事に長く関わることが出来て大変幸せでした。私は四十年におよぶ持病との付き合いの中で、患者目線の医療について日々考えて参りましたが、退任の挨拶に代えて、患者目線を踏まえたこれからの医療、さらに図書館と本学のこれからのことについて私見を述べさせていただきます。

医学部医学科では“medical science”を中心に学びます。一方で本学のような医療系大学では“health science”が中心となります。教育とは善き洗脳です。ただ何を以って“善き”とするかは、立場が変わると微妙に中身も変わってきます。医師の思考は本人も知らぬうちに“medical science”がベースとなります。私個人の感覚に過ぎませんが、急性期などの治療では“medical science”の恩恵を強く感じますが、生活期になるとあまり有難みを感じません。むしろ普段の外来や日常生活では“medical science”に違和感すら覚えることもありました。

WHO が健康について定義しているように、持病や障害があっても、身体的、精神的、社会的コンディショニングが整えば人は健康でいられます。たとえ病院通いをしていても、健康状態にある人にとって必要なものは、“medical science”ではなく、“health science”なのだと、本学に来てからストーンと腑に落ちました。一日 24 時間、一週間、一年、どのように日常生活をセルフデザインするか考えながら日々を過ごすことの重要性を認識するようになりました。医師として長く経験を重ねる中で、やはり私自身の思考の中でも“medical science”が大きくなっていったのかもしれない。

“medical science”は次世代への恩恵に対する大きな期待がもたらす莫大な経済価値を有しています。だからこそ経済市場においても大きな影響力があります。しかし、徹底した生体機能解明が最終的に行きつく先は不老不死です。確かにそう遠くない将来、豊かな資産があれば若く長い人生を謳歌することが可能になるでしょうね。果たしてそれが人類にとって幸せをもたらすか否かは現段階ではわかりません。

私自身薬物療法の多大な恩恵を被っていますが、日常生活におけるコンディショニングも、優るとも劣らずと感じています。ありがたいことに“medical science”をベースとした研究のおかげで、栄養、運動、入浴、睡眠等々、ライフスタイルの科学的エビデンスもかなり蓄積してきました。つまり今世紀は“health science”がいよいよ大きく花開く時期となるはずで、そして得られたエビデンスを駆使し、最終的により望ましいライフスタイルへの行動変容の担い手となるのは、医療関連職種に他なりません。しかも病・医院の外で、保険医療外のサービスとして提供することも可能です。

ところがこの行動変容が容易ではありません。成人病が生活習慣病へと呼称変更されてやがて 30 年です。生活習慣ですから、個々人の生活習慣、つまりは自己責任の印象が強いのですが、実際のところ生活習慣は地域や国、社会環境の影響を多大に受けます。自由に勤務時間帯を変えることは多くの職場でまなまりません。また人は自らの心身へのストレスが強くなると、それを乗り越える為に糖分・脂質の過大なカロリー、塩分・香辛料の刺激物を求めます。そして健康的な生活を送りたくても、多くの人が職場や収入による制約を受けるのが現実です。

外来診療を行っている、日本のように世界トップクラスの保険医療制度の下でも、経済格差や教育格差が健康格差につながっていることを感じることは少なくありません。結局のところ、行動変容を可能にする教育機会、経済基盤、ワークライフバランスがもっと世に広く浸透する必要があります。大学には教育と研究の双方に責務があります。研究をする以上、専門的立場から社会へ発信する必要があります。自然科学のみならず心理学、文化人類学、社会学等、様々な専門家が多面的角度から社会への提言を行う必要があります。

さて図書館の役割も時代の変化とともに大きく変容しています。私が図書館に関わって来た 8 年の間でも、従来の蔵書へのアクセス場所としてだけでなく、情報のハブ、プラットフォームとしての概念的な存在意義がどんどん拡大しています。一方で静かな閲覧室のイメージだけでなく、キャンパステラスのように学生、教職員が対面で意見や情報を交わす大切な場所としての意義も有しています。図書館はその大学の文化の象徴と言っても過言ではありません。本学が世に根を張り開花するための下支えとして、大学に関わる皆で図書館を育てていきましょう。

大学は決して国家試験予備校ではなく、次の世を創り支える人材を育てる場所です。私たちの大学はまさに“health science” university であり、今日の前に存在する人々が健やかに生き、健やかに老い、健やかに死を迎えることを可能にする素晴らしいポテンシャルのある大学です。私個人もこれから一特任教授として図書館を大いに利用し、図書館を陰で支える司書やアルバイトの皆さんと一緒に意見や知恵を出し、図書館と大学の発展に陰ながら寄与できれば幸いです。これまで多くの皆様方のお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。そしてこれからもよろしく願いいたします。

◆お知らせ

- 『私の部屋でランチを』第 60 回 (2/28)
図書館長(リハビリテーション学科教授)飯山準—
『人生はプラン B～私の働き方改革 2023～』

動画を DVD にしました。
図書館に配架しておりますので、
どうぞご視聴ください。



- 図書館専用 LINE では、図書館の最新情報をお知らせします。



○編集後記

図書館は、飯山館長にご指導いただいた 8 年の間に、電子コンテンツの充実や図書館システムの IC 化、図書館キャラクター「ホカボン」誕生、選書ツアー、ラーニングコモンズの設置。また『私の部屋でランチを』『サイエンスカフェ』等では、学内外の医療や他分野の皆様との交流、教育研究の支援と、新たな図書館の形へと発展してまいりました。

館長のお優しくも熱い教育研究指導における学生への思いは、館内に溢れております。

また、私たち図書館員の企画やアイデアも、幾度となく背中を押して実現させてくださいました。

これまでの感謝と御礼を込めまして、特別号を発行いたします。